

6月23日～29日は男女共同参画週間です。

平成23年度キャッチフレーズ

「チャンス^{ひら}を分かち、未来を拓こう」

男女共同参画

内閣府男女共同参画シンボルマーク

男女共同参画週間について

毎年6月23日から29日までの1週間「男女共同参画週間」を実施しています。男性と女性が、職場で、学校で、地域で、家庭で、それぞれの個性と能力を發揮できる「男女共同参画社会」。その実現のためには、政府や地方公共団体だけでなく、国民のみなさん一人ひとりの取り組みが必要です。私たちのまわりの男女のパートナーシップについて、この機会に考えてみませんか？

引用：(内閣府 男女共同参画局HP)



○パネリスト (右から)

- にしおか あきら
・西岡 明樂氏
(CSO市民活動センター「ようこそ」サポーター)
- もりなが つわこ
・森永都和子氏 (小城市男女共同参画推進員)
- たなか やすのり
・田中 康教氏 (小城市男女共同参画推進員)
- おうせ ゆみこ
・合瀬由未子氏 (小城市男女共同参画ネットワーク)
- ・江里口秀次 (小城市長)

5月21日(土)、牛津公民館で小城市男女共同参画ネットワークの本年度総会が開催されました。その中で「チャンス^{ひら}を分かち、未来を拓^{ひら}こう〜だいでんいっしょに!」をテーマに、男女共同参画推進員の方々と市長とで、パネルディスカッションを行いましたので、内容を要約してお伝えします。

「認め合い、支えあうこと」とは…

・男女共同というのは家庭内が一番基本だと思います。相手の気持ちを理解する余裕があれば、「認め合う、支えあう」ことが、生活の中で感じられ、互いに優しくできるのではないのでしょうか。

か。

・価値観の違いをしつかりと認め合う努力をすることが大切だと思います。自分ができることを、少しずつでもやってみてはどうでしょうか。将来的には「男女共同参画」という言葉がなくても、それが当たり前と言われるような社会を目指す必要があると思います。

か。

・価値観の違いをしつかりと認め合う努力をすることが大切だと思います。自分ができることを、少しずつでもやってみてはどうでしょうか。将来的には「男女共同参画」という言葉がなくても、それが当たり前と言われるような社会を目指す必要があると思います。

か。

・価値観の違いをしつかりと認め合う努力をすることが大切だと思います。自分ができることを、少しずつでもやってみてはどうでしょうか。将来的には「男女共同参画」という言葉がなくても、それが当たり前と言われるような社会を目指す必要があると思います。



「希望あふれる小城市」を
目指すためには…



・女性が働きやすい環境を作ることですね。出産しても仕事を続けられるなど、市が積極的に女性をサポートして欲しいと思います。
・女性の方から地域の会合に出て行って、意見も堂々と言って欲しい。夫婦、家族、地域が優しく理解しあえば、一段と希望あふれる小城市になると思います。
・若い方が活躍できる場が欲しいです。若い人たちが結婚し子供が出来て、地域を支えていくというところが、地域の活性化には必要だと思います。
・近所の若いパパ



が夜中も赤ちゃんのお世話をしていると聞き、まさしく今の時代だなあと。お産はど

うしても女性にしかできないこと。だからこそ男性のサポートが必要です。

「行政の役割」とは…

(市長)

行政には男女共同参画を進める上で、色々な役割があります。

まずは、市でお願いしている審議会や委員会です。

女性の参画率・30%以上を目指していますが、現況は約23%に留まっています。

女性がもっと積極的に参画していただけるようにしなければいけません。

次に、DV(ドメスティック・バイオレンス。夫婦や恋人間における暴力)についてです。非常に深刻な問題になってきており、相談件数も減っておりません。ずっと増えている状況です。市としても、しっかり取り組みをやっていかなくてはならないと考えています。そして学校教育です。今の子どもたちは、我々世代と比べて「男も女も一緒」という意識を持っていると感じます。その子どもたちが将来の地域社会や家族を作っていくので、男女共同参画教育を進めていくことは大切だと思います。

男女共同参画社会とは、誰にでも居場所があり、出番やチャンスもある社会ではないでしょうか。

「男女共同参画」というと、固いイメージがあるかもしれません。

まずは「お互い様」、「居場所づくり」、「思いやり」など身近なことを、ご家庭や職場で話すことから始めませんか。



【問合せ】企画課 市民協働推進係 (牛津庁舎) 担当 熊谷・福岡 ☎63-8803